

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

（1）過去5年間の報告状況

疾患名	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
性器クラミジア感染症	147	133	239	277	251
性器ヘルペスウイルス感染症	83	106	229	280	291
尖圭コンジローマ	44	58	50	55	58
淋菌感染症	37	19	29	40	52
性感染症報告数 小計	311	316	547	652	652

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	338	350	326	337	321
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	13	11	27	14	14
薬剤耐性緑膿菌感染症	2	5	5	1	4
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*)}	—	—	—	—	
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	353	366	358	352	339

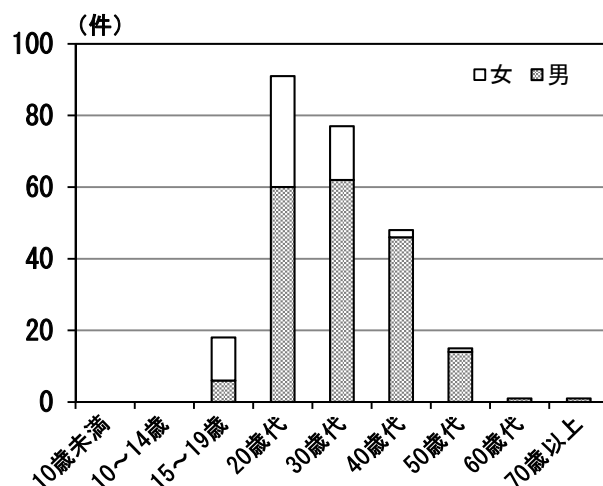
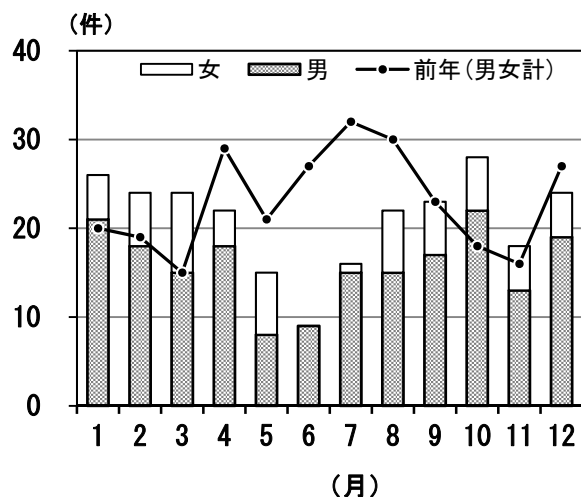
^{*)} 平成 26 年 9 月 19 日より全数把握疾患として追加された。

（2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は 652 件と、前年（652 件）と同数であった。過去 5 年間では、平成 25 年に定点病院が一部変更されたことより単純に比較できないものの、平成 24 年以前は毎年 300～400 件で推移していたが、平成 25 年以降は 500～700 件と増加している。男女別では、男性 335 件（前年 347 件）、女性 317 件（前年 307 件）と男性、女性とも前年に比べ大きな変化は見られず、疾患別でも前年同様、性器クラミジア感染症（38.5%）、性器ヘルペスウイルス感染症（44.6%）の割合が非常に多く、尖圭コンジローマ（8.9%）、淋菌感染症（8.0%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は251件と前年（277件）よりやや減少し、5～7月にやや報告数が少なかったものの、季節的な変動は示さず、年間を通じて報告された。男女別では男性190件（前年190件）、女性61件（前年87件）と男性に変化はなかったが女性の報告数が減少し、全体では男性（約76%）が多くを占めた。

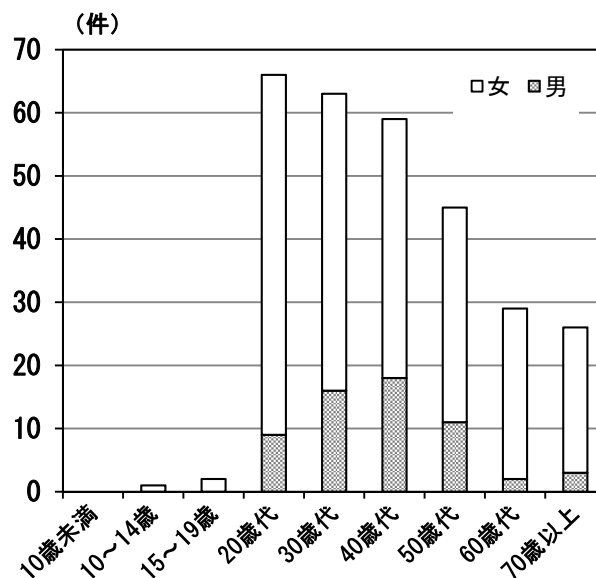
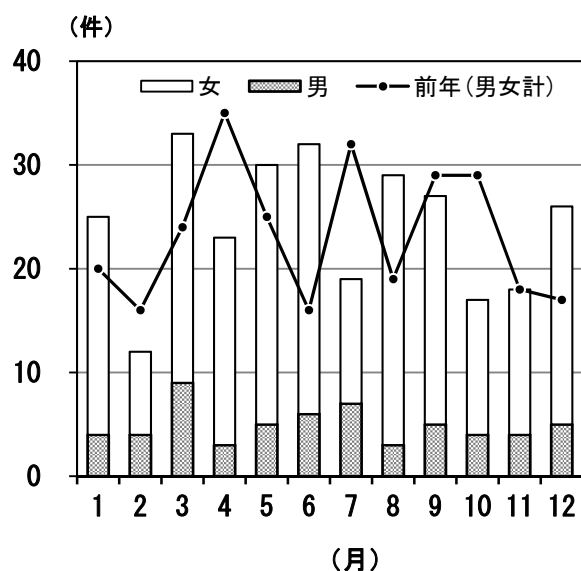
年齢別報告数では、10歳代7.2%、20歳代36.3%、30歳代30.7%、40歳代19.1%、50歳代以上6.8%と、20～40歳代からの報告が多かった。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

年間報告数は291件（男性59件、女性232件）であり、前年（280件：男性77件、女性203件）とほぼ同数であったが、男女別に見れば男性の報告数はやや減少し、女性の報告数は増加していた。また性感染症全体では、男性が女性より多く報告されているが、本疾患は女性が約8割を占めるなど、女性の割合が他の疾患に比べ高かった。

年齢別報告数は、10歳代1.0%、20歳代22.7%、30歳代21.6%、40歳代20.3%、50歳代15.5%、60歳代10.0%、70歳代以上8.9%と、20～40歳代がやや高かったものの、各年齢層から報告されていた。また、60歳以上の高齢者からの報告数が19.7%と他の性感染症と比較して多い傾向が見られたが、潜伏していたウイルスによる再発の可能性も考えられる。

性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

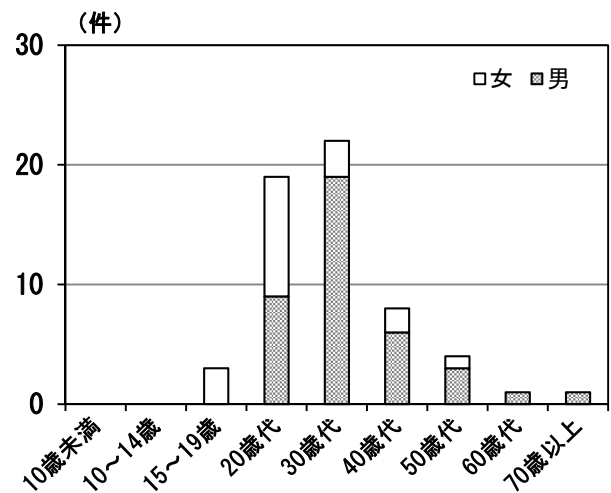
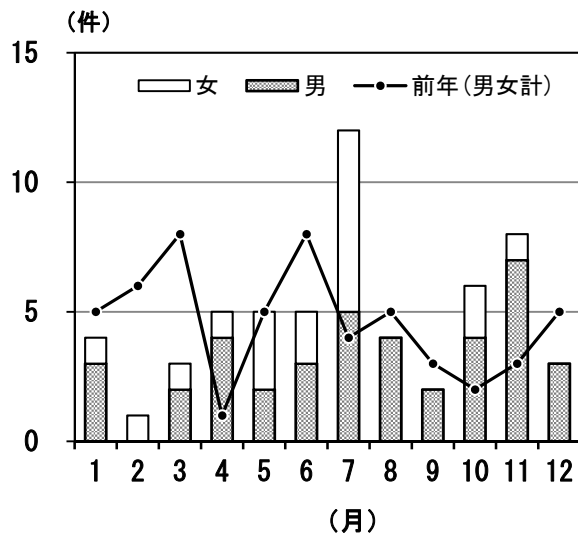


③ 尖圭コンジローマ

過去5年間の年間報告数は40～60件と、年毎により大きな変化はなく推移し、本年も58件（男性39件、女性19件）報告された。男女別では性器クラミジアと同様に男性が多く、約7割を占めた。

年齢別報告数は10歳代5.2%、20歳代32.8%、30歳代37.9%、40歳代13.8%、50歳代6.9%、60歳以上3.4%と、他の年代に比べ20～30歳代からの報告が多く、全体の約71%を占めた。

尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数

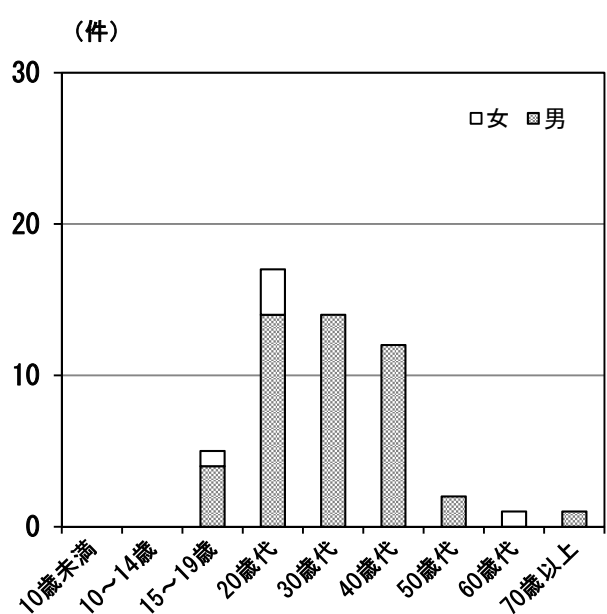
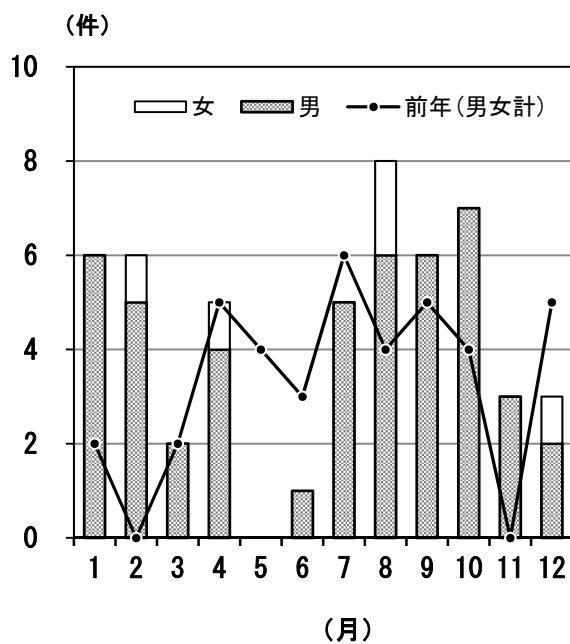


④ 淋菌感染症

年間報告数は52件と平成24年(19件)から3年連続で増加し、過去5年間では最も多い報告数となった。男女別では、男性47件、女性5件と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、約9割を占めた。

年齢別報告数は10歳代9.6%、20歳代32.7%、30歳代26.9%、40歳代23.1%、50歳代3.8%、60歳以上3.8%であった。他の性感染症と同様に、20～40歳代の割合が高く、全体の約90%を占めた。

淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



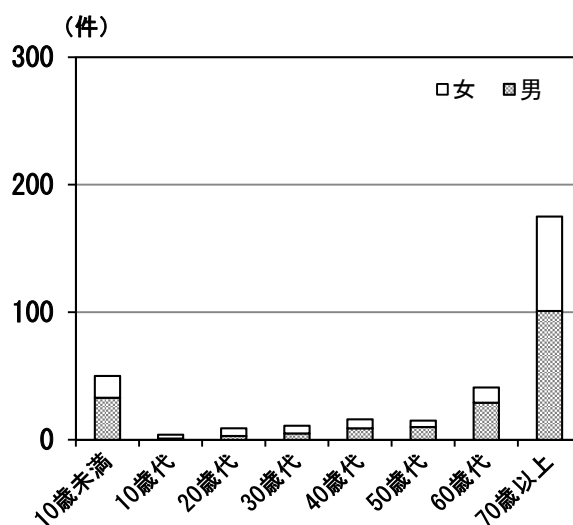
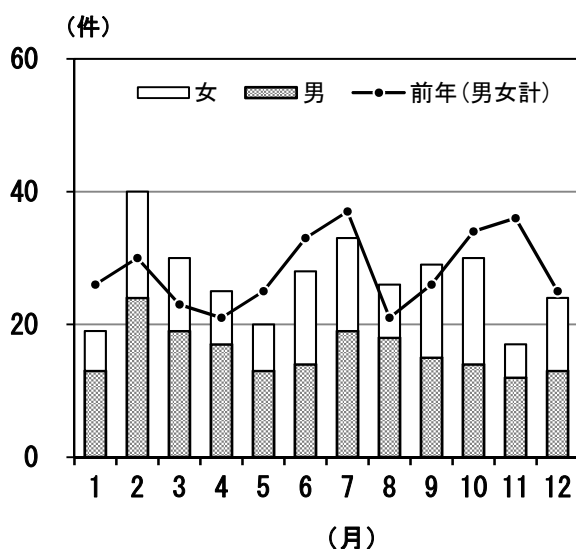
(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は 339 件であり、前年（352 件）とほぼ同数であった。過去 5 年間をみても毎年 350 件前後で推移し、大きな変化は見られていない。疾患別の届出数においても例年同様、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が大半（約 96%）を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

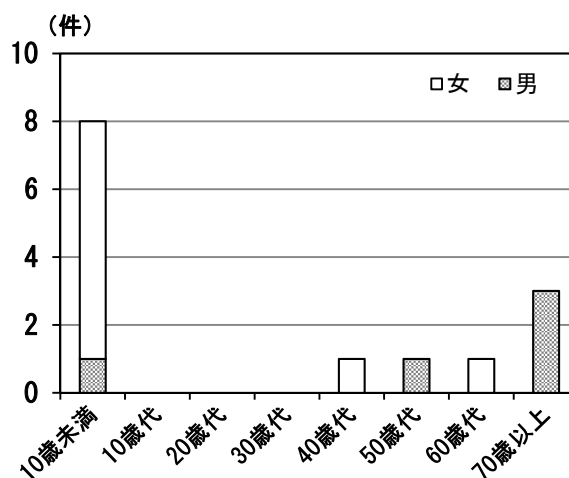
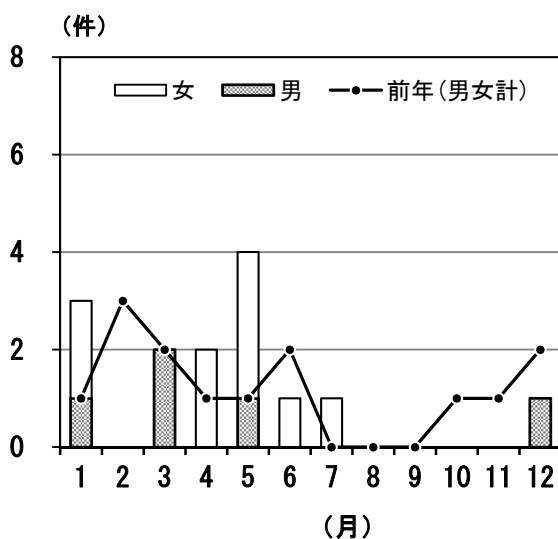
年間報告数は 321 件（男性 191 件、女性 130 件）であり、前年（337 件）とほぼ同数の届出数となった。年齢別報告数においても、10 歳未満 15.6%、10 歳代 1.2%、20 歳代 2.8%、30 歳代 3.4%、40 歳代 5.0%、50 歳代 4.7%、60 歳代 12.8%、70 歳以上 54.5%と、前年同様に 60 歳を超え年齢が高くなるにつれ大きく増加し、男女別でも男性の報告数が女性より多く報告された。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は14件（男性5件、女性9件）と、前年（14件）と同数であった。過去5年間では、毎年10～30件で推移している。

年齢別報告数では、10歳未満57.1%、40歳代7.1%、50歳代7.1%、60歳代7.1%、70歳以上21.4%と、10歳未満からの報告が最も多かった。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は4件（男性3件、女性1件）であった。過去5年では、毎年5件以内の届出数で推移している。

薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

